

## Y2-1

### 大田原赤十字病院NSTの推移 チーム活動を通しての変化 栄養課の役割

大田原赤十字病院 医療技術部 栄養課  
○久保 泉、松田 千鶴、松岡 恵美子、  
千葉 周子

NSTの構想から起動に乗せるまでの大田原赤十字病院NSTを、管理栄養士の立場から振り返ってみた。平成18年度に改定された医療法のコンセプトは、物に対する評価から人の技術への評価である。これからの管理栄養士のあるべき姿は、チーム医療の一員として活動することと考え、NSTを立ち上げることを計画。院長の許可のもとメンバーを募り、医師にはTNT-Cへの参加を依頼した。現在までのチーム活動の結果により、院内での啓発は進んでおり、今後は地域連携NSTの立上げを目標としている。医療者側からの目線になりすぎているか、他委員会との関係はどうあるべきか等々、今も手探りであり、改善しながらの日々ではあるが、医療者としてのマナーを守り、チームとしての心得を忘れず、「Hospital Malnutrition」を回避し、常に患者に寄り添う心を持ち続けたNSTであり、管理栄養士でありたい。他職種からのチームへの積極的な参加を促し継続させるために、NST事務局として栄養課はなにをしてきたか、これまでの軌跡を報告する。

## Y2-2

### さいたま赤十字病院のNST活動の現状と問題点

さいたま赤十字病院 NST  
○久保田 倫代、広瀬 和孝、中村 純一、  
武居 一康、大内 邦枝、高橋 千賀子、  
長岡 勇吾、丸山 伸樹、安西 利恵、  
荒井 瑞恒

【はじめに】当院のNST活動は、平成16年にNST準備委員会が出来、翌年4月からNST委員会が設立され、本年で6年目を迎えた。現在の構成は、医師6名、看護師6名、薬剤師2名、臨床検査技師1名、言語聴覚士1名、管理栄養士・栄養士3名、事務職員2名で院内の栄養サポートを行っている。

【活動内容】1) 院内にNST活動を啓蒙する為、NST講演会、講習会を毎年行っている。平成20年度は、近隣の医師を招いた「栄養治療診療連携セミナー」を開催し、広く門戸を開いたNST活動を目指している。2) NST依頼はイントラネット上のメールを使用している。NST依頼が来ると、原則24時間以内に病棟へ赴き、今までの経緯や問題点を抽出し、初期方針を検討する。平成21年度からは、回診、またはカンファレンスを毎週行い、各スタッフが専門分野で栄養管理について協議し、きめ細かい患者の栄養状態改善に向け努力している。3) 対外的な評価として、平成19年度「日本病態栄養学会 栄養管理・NST実施施設」、平成20年度「日本栄養療法推進協議会 NST稼動施設」認定を取得した。

【問題点】NST活動をスムーズに行う上での問題点  
1) 栄養評価の院内統一化 2) NSTスタッフ及びその他の職員のレベル底上げ 3) 病診連携NSTの構築などが挙げられる。

【まとめ】様々な要因がある中、患者の低栄養状態改善は簡単なことではない。しかし、職員が一つになって低栄養状態改善に立ち向かい、少しでも回復すれば、患者利益の向上と、在院日数短縮にもつながる。NST活動の核は医師と看護師であり、当院でも医師と看護師の更なる協力が必要である。人が生きていく上で、栄養を切り離して考えることは不可能である。今後も院内スタッフの協力を得て入院患者のQOL向上に努力したい。